



安全保障政策

下地 幹郎

5つの安全保障基本原則

1. 日米同盟機軸

真の友好国は対等な交渉を行う

2. 反戦

二度と戦争を起こさない

3. 反核

非核三原則を遵守する

4. 専守防衛

憲法を守る

5. 日米地位協定の抜本改定

沖縄の尊厳を守る

日米同盟を基軸とし、アジア全体の平和と安定のために、両国がどのような役割を担えるのかを絶えず協議し、安心・安全の地域を構築する。

そのためには、日米同盟が平等で対等な関係であることを示すことが重要ですが、日米地位協定の抜本改定こそが強固な同盟の証になります。

非核三原則、専守防衛を守り、二度と戦火にまみれることのない時代をつくるために、国民全員で反戦の思いを強く持たなければなりません。

平和は、待っていて得られるものではなく、憲法の専守防衛の精神に則って、あらゆる脅威に耐えられるような防衛力を保持することが重要なことであります。

「5つの安全保障基本原則」を明確に示した中で、「沖縄の米軍基地負担軽減」と「アジアの安全保障の役割」をベストミックスしていくことが重要なことであります。

沖縄の過重な 米軍基地負担を軽減する 4つの項目

1 | 米軍基地の削減

2 | 米軍の訓練移転

3 | 米軍・自衛隊基地の統合

4 | 民間と米軍基地と
自衛隊基地の統合



1 | 米軍基地の削減

(牧港補給地区)

キャンプキンザーの返還

2013年に発表された「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」において、「嘉手納以南の米軍基地の返還」が合意されています。

それによって、キャンプキンザーの返還が「合意」されているものの、いまだ返還は実現していません。

270ヘクタールという広大な敷地面積を持つキャンプキンザーの**早期返還は、米軍基地を減らしていく第一歩**となります。

そして、キャンプキンザーの早期返還を行い、那覇軍港・キャンプキンザー・普天間飛行場の一体再開発を行うことが、沖縄経済にも大きく寄与することになるのです。

■基地返還の経済効果 那覇新都心の場合

	返還前	返還後	倍率
直接 経済効果 (億円)	52	1,634	32倍
雇用者数(人)	168	15,560	93倍
税収効果 (億円/年)	6	199	33倍

資料出所:『駐留軍用地跡地利用に伴う経済波及効果等検討調査』2006年度

那覇新都心 **192**ヘクタール < **270**ヘクタール キャンプキンザー

2 | 米軍の訓練移転

馬毛島が沖縄の基地負担軽減を実現する!

沖縄で行われている米軍訓練を
馬毛島の自衛隊訓練施設へ移転する

6つの沖縄での過重な訓練

- ①「普天間・嘉手納の外来機訓練」
- ②「普天間・嘉手納のタッチアンドゴー訓練」
- ③「伊江島の不整地着陸訓練」
- ④「伊江島のパラシュート降下訓練」
- ⑤「高江ヘリパッドのオスプレイ訓練」
- ⑥「金武ブルービーチの上陸訓練」

すべての訓練が馬毛島で可能!



**馬毛島へ
移転!**



軍用機の訓練が、沖縄県内で行われなくなる

騒音や事故の可能性が激減

3 | 米軍・自衛隊基地の統合

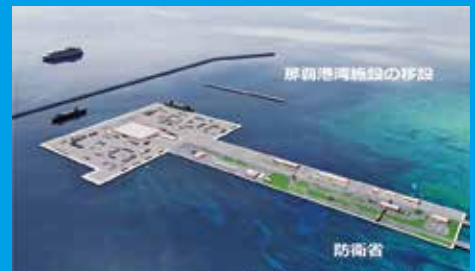
ホワイト・ビーチ地区

→ 那覇軍港へ統合

うるま市のホワイト・ビーチ地区



那覇軍港の代替施設案



米軍基地の統合は **1+1=0.5**

4 | 民間と米軍基地と自衛隊基地の統合

やんばる国際空港2800

衛星写真出典：国土地理院ウェブサイト <https://maps.gsi.go.jp/>
下地ミキオ後援会にて国土地理院写真に空港計画イメージを合成加工

やんばる国際空港2800を実現する意義は、本当に大きなものがあります。東京一極集中と同じ様に沖縄本島も南部地域に経済が集中し、北部地域の活性化が遅れていました。しかし、やんばる国際空港2800プロジェクトの成功は、北部全体、周辺離島に様々な経済効果をもたらし、人々が集う地域に変わり、南北格差は完全に解消されることになるでしょう。

大浦湾

これから埋め立て
[111畝](軟弱地盤)

NEW PLAN

やんばる国際空港2800

浮きドック工法・杭打ち工法で

[埋め立てゼロ]

現行計画
(V字滑走路)

軟弱地盤は
埋め立て
しません。



民軍共用とし、沖縄県管理空港とする

国内便だけでなく、国際直行便を就航させる

北部地域の経済・雇用拡大を図り、過疎化を解消する

沖縄への玄関口が那覇空港に集中していたことで発生してきた沖縄本島内の交通渋滞を改善する

